

- ☒ 話すこと ☐ 書くこと ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実 ☒ 授業での活用 ☒ 家庭学習での活用
☒ パフォーマンステストでの活用 ☒ 課外活動での活用

実践の ポイント

個別最適な学びを支えるAI活用による言語活動

実証概要

<校数>9校(中学校:9校) <人数>1,604名(中学校:1,604名)
<学年>中学校:第1、2、3学年 <アプリ等>WorldClassroom(HelloWorld株式会社)
<AI機能について>音読練習機能(各種英文についてスピーキングのスコアリング等)・プレゼン機能(原稿作成、文法チェック、動画撮影、提出)・AI英会話練習機能(AIキャラクターとの英会話やり取り、会話ターン数計測等)

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●「話すこと」パフォーマンステストの取組

単元終末のパフォーマンステストに向け、スモールステップの課題やテスト本番に向けての一連の流れをWorldClassroomを用いて実施。言語面(英語使用の正確さ)をAIがサポートすることで、教師は、相手との人間関係や会話を行う状況、場面に適した語彙の選択、対話を継続させるための表現等、実践的なコミュニケーション能力の向上に対するきめ細かな指導が可能となった。これにより、生徒個々に応じた課題を把握し、個別の手立てや教師やALTによるフィードバックが充実し、生徒に自身の成長を実感させ、次時につなげる課題をもたせることができた。特に音読練習の回数を重ねることで、生徒は自身のスコア向上を実感するとともに提出用の動画撮影に加えて教師やALTとの対面でのパフォーマンス、クラスでの発表等に自信をもって意欲的に取り組む姿が増加した。



AIの各種機能を活用し、一連の流れが実施可能

原稿
作成

文法
チェック

音読
練習

動画
撮影

発表
(提出)

評価・
コメント

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①生徒の英語力の変化

それぞれ同一課題の事前・事後検証において、音読スコア49.17→57.57、英会話発話単語数16.90→20.66、英会話やり取りターン数3.89→6.24と、全年において伸びが見られた。

②生徒の関心・意欲の変化

特に音読・プレゼン練習では、AI活用で点数化や課題の可視化が可能となり、自ら目標を設定して自律的に学習に励む生徒が増加した。

③教師の指導の変化

音読や英作文において、個に応じた指導が必要であったこれまでの授業からAIを活用した個別最適な学びを一層推進する授業への転換に加え、手だてが必要な生徒へよりきめ細やかな指導を行うことができるようになった。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●授業改善の推進と個別最適な学びを具現化する指導の工夫

個別最適な学びを推進する教員の育成と市内中学校での授業改善を目的とし、AI活用の事例を公開授業や市内英語科職員のコミュニケーションツールにて周知した。中学校1学年での授業実践では、教科書やデジタル教科書、AIアプリ等、生徒が学習課題に応じて手段を自己選択する場を設定した。この公開授業を参観した各校のリーダーによる授業研究会を通して、「学び方を学ぶ」段階的な指導が生徒の自律的な学習姿勢を育むことを共通確認した。この取組により、各校において学年段階に応じた個別最適な学びを具現化する指導の工夫に向け、各リーダーに意識の変容が見られた。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●全中学校で挑戦！英語学習の意欲を高める取組

市内中学校全9校においてAI活用とオンライン国際交流を連動させた取組を展開し、生徒の学習意欲向上に成果を得た。一方で、学力向上を図るため、AIによる学習ログや各種調査結果等の分析に基づき、AI活用をいかに知識・技能の定着と主体的な学びの育成に結び付けるかが今後の課題である。今後は個別最適な学びを授業改善の核として位置づけ、確かな学力の向上を図る取り組みを推進する。